

人のいる景色

175



信貴山護摩祈願

信貴山朝護孫子寺の元旦の護摩法要に遭遇しました。護摩焚きの炎は、竜とか顔に見えるそうです。新年を祈願しました。

伊勢市 橋上 裕

在宅医療について(四日市モデル)

医療法人SIRIUS いしが在宅ケアクリニック

石賀 丈士

医療法人SIRIUS いしが在宅ケアクリニック理事長の石賀丈士氏に「在宅医療について」というテーマで原稿を執筆いただいたので掲載する。

四日市市は、全国的に見ても在宅医療の整備と地域連携が進んでいます。かかりつけ医が行う在宅医療を「二次在宅」、在宅に力を入れている在宅療養支援診療所によるものを「二次在宅」、医師が複数体制で在宅医療を専門に行う診療所によるものを「三次在宅」と位置付け、患者の重症度や医療依存度に応じてすみ分けをしています。そして

地域の医療資源や介護資源と連携を深め、次々とネットワークを構築しています。訪問看護ステーションや訪問歯科診療所とも密に連携をとっています。その結果、病院での看取り率が2007年の79・7%に対し、2016年には66・8%と激減する一方で、自宅や施設での看取りが増加しています。在宅と介護施設を合わせた看取り率は25・9%

(自宅18・0%、介護施設7・9%)と全国でもトップクラスです。四日市モデルの一翼を担う当院はスタッフ総勢37人(常勤医師7人)で毎年300人前後を看取り、約1万5000ある在宅療養支援診療所の中で西日本一、全国四位の実績です。在宅医療に携わるスタッフ自身が幸せや充実感を感じていなければ、より良いサービスは提供できません。当院では、土・日・祝日は休み、平日は午後5時終業、有給休暇の全消化を実践しています。休日・夜間は当番医師がすべて対応しています。当番日以外は医師も午後5時に帰宅できるため、QOLを高く維持できています。静岡県や京都府から毎日通う常勤医師もいました。年間300人前後の看取りを行う診療所であればこそ、スタッフが疲弊しないための仕組みづくりが必要だと考えます。このような取り組みは、医療界全体の過重労働を解消する上でも、参考になるかもしれません。今後は中部・関西ブロックの研修拠点としての役割を担っていきたくと考えており、年間50人を看取りることができるとプロフェッショナルな在宅医を育成し、全国各地へ送り出していきたいと考えています。

